

製品をつくるため 原材料を仕入れた場合は？

慣れないうちは取引があったとき、どんな勘定科目で処理すればよいのか、悩むケースもあるでしょう。そうした勘定科目の取扱いについて、新人さんと一緒に、事例をもとに学んでいきましょう。



新人さん：先日、工場での棚卸しを見にいったら、様々な完成品があるなかで、実際にある在庫と帳簿上の在庫を照合して大変そうでした。

先輩：そうだね。ただ、棚卸しをしっかりとしないと、適正な損益計算ができないから、ものすごく重要なことなんだよ。

新人さん：はい、経理課に来るまではピンときませんでしたが、いまは大切だとよくわかります。

先輩：でも、完成品だけを棚卸しすればいいわけじゃない。完成品をつくるための材料も大切なんだよ。しっかり見てきたかな？

○解説

「原材料」とは、製品の製造のために外部から購入した原料、材料、購入部分品で、まだ使用していない物品を処理する勘定科目です。

原材料には、①原料（製造過程で科学的に変化して、素材の原形をとどめない物品）、②材料（製造過程で物理的に変化して、素材の原形をとどめる物品）、③購入部分品（加工することなくそのままの状態で製品等に取り付けられる物品）、があります。

原材料を仕入れた場合の原材料の取得価額には、原材料の購入対価のほか、①買入手数料や運送費用等の購入のために直接支出した付随費用、②検収や整理等のために間接的に支出した付随費用、③工場間の移管運賃や荷役費用等の事後費用も含めます。

決算にあたり、継続的記録法による帳簿棚卸数量よりも実地棚卸数量が少ない場合、その不足量に原材料の単価を乗じた額を「棚卸減耗損」として計上します。「棚卸減耗損」のうち、原価性を有するものは製造原価として、原価性のないものは営業外費用や特別損失として、損益計算書上、処理します。

ケース1 原材料を仕入れた場合

製品Aの製造のために、仕入先から材料XYZを100万円（税別）で仕入れて、代金は普通預金口座から振り込んだ。

【借方】	原材料	1,000,000	【貸方】	普通預金	1,100,000
	仮払消費税等	100,000			

ケース2 原材料を消費した場合

材料XYZの一部90万円を、製品Aの製造のために消費した。なお、その内訳は、直接材料費80万円、間接材料費10万円であった。

【借方】	仕掛品	800,000	【貸方】	原材料	900,000
	製造間接費	100,000			

ケース3 棚卸数量が不足していた場合

期末の実地棚卸の結果、材料XYZが帳簿残高より3万円不足していた。

【借方】	棚卸減耗損	30,000	【貸方】	原材料	30,000
-------------	-------	--------	-------------	-----	--------